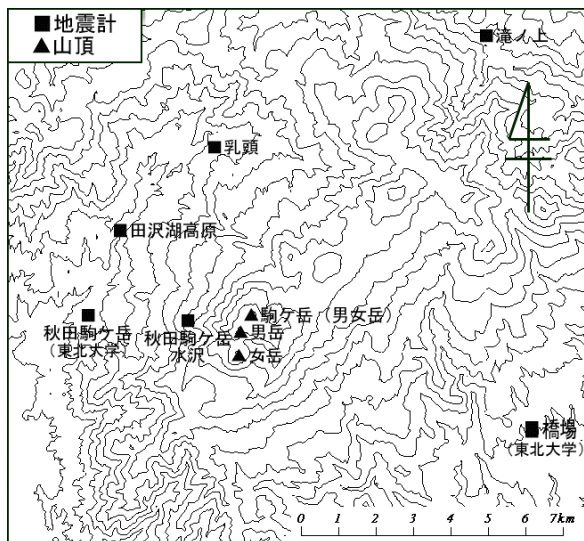


# 秋田駒ヶ岳

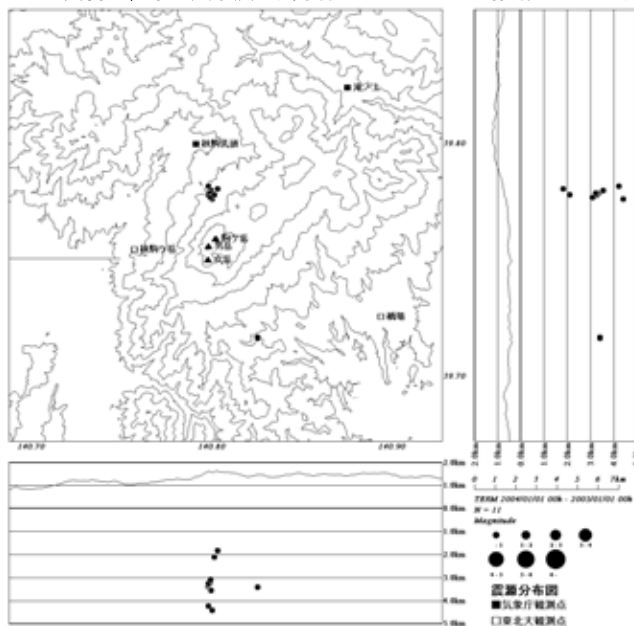
## 概況

火山活動に変化はなく穏やかに経過しました。

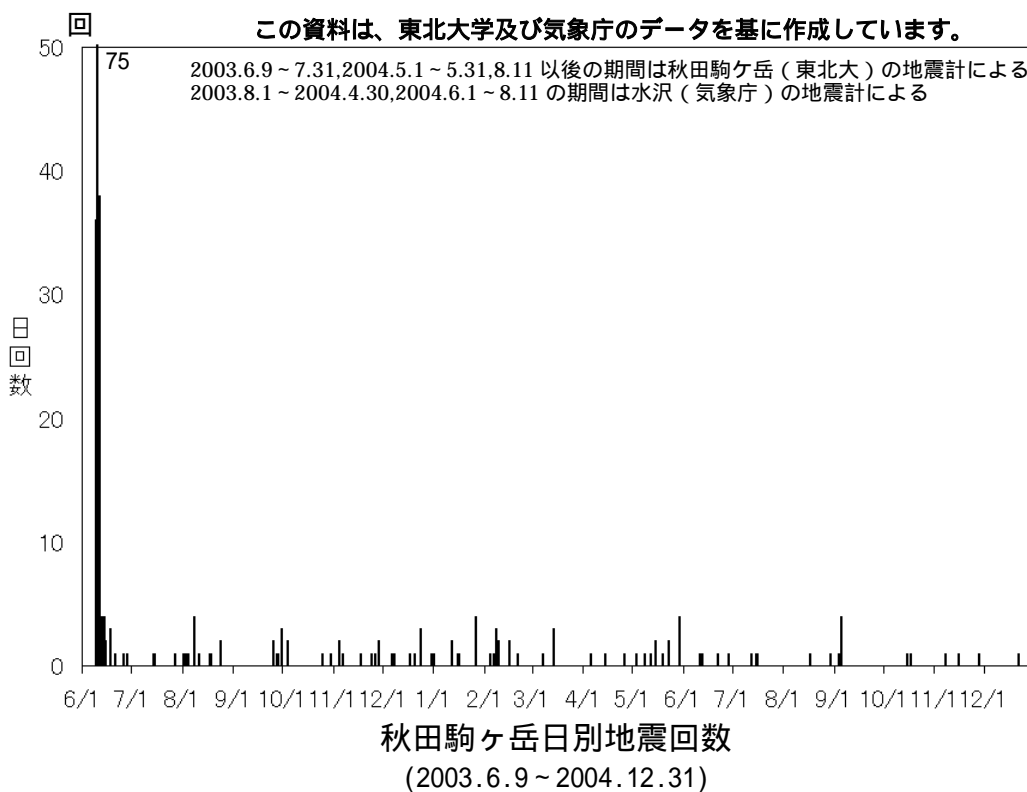


秋田駒ヶ岳観測点配置図

この資料は、東北大学及び気象庁のデータを基に作成しています。



秋田駒ヶ岳震源分布図(2004.1.1～2004.12.31)



## 秋田駒ヶ岳 現地観測の状況

### 概況

9月15日に、秋田駒ヶ岳の赤外熱映像観測、噴気、地中温度観測を実施しました。  
 昨年6月11日の観測結果と比較して、女岳北側噴気地熱地帯の状態に変化はなく、異常はみられませんでした。

### 秋田駒ヶ岳火山現地観測結果（9月15日実施）

女岳山頂北部及び大焼砂を中心に、赤外熱映像観測、噴気、地中温度観測を実施しました。

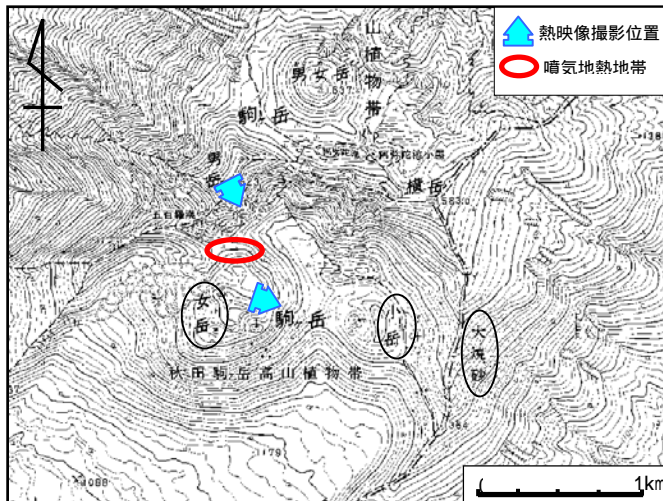
女岳山頂北部の噴気地熱地帯は、1970年の噴火前から確認されており、近年も登山者等から噴気に関する情報が寄せられている場所です。

昨年6月11日の観測結果と比較して、噴気地熱地帯の領域に拡大はみられず、噴気温度、火山ガス成分の観測結果にも変化はみられませんでした。

大焼砂は、女岳、小岳を中央火口丘としたカルデラ外輪東側に位置し、植生はありません。冬期でも地肌が露出することがあり、雪解けも早い場所です。

今回の赤外熱映像観測では、日射の影響による高温領域は解析されたものの、地熱の高い領域は解析されませんでした。

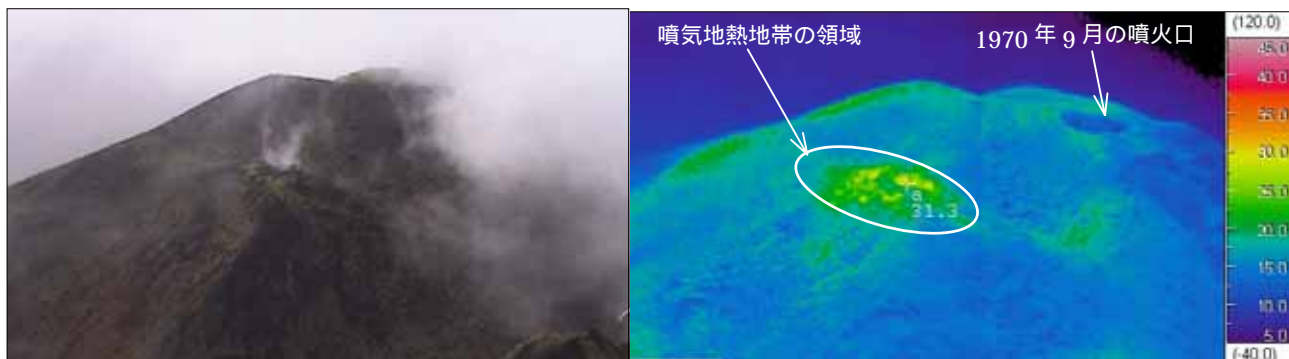
また、50m間隔で行った地中温度観測結果は、外気温度とほとんど同じ13~16で、異常はありませんでした。



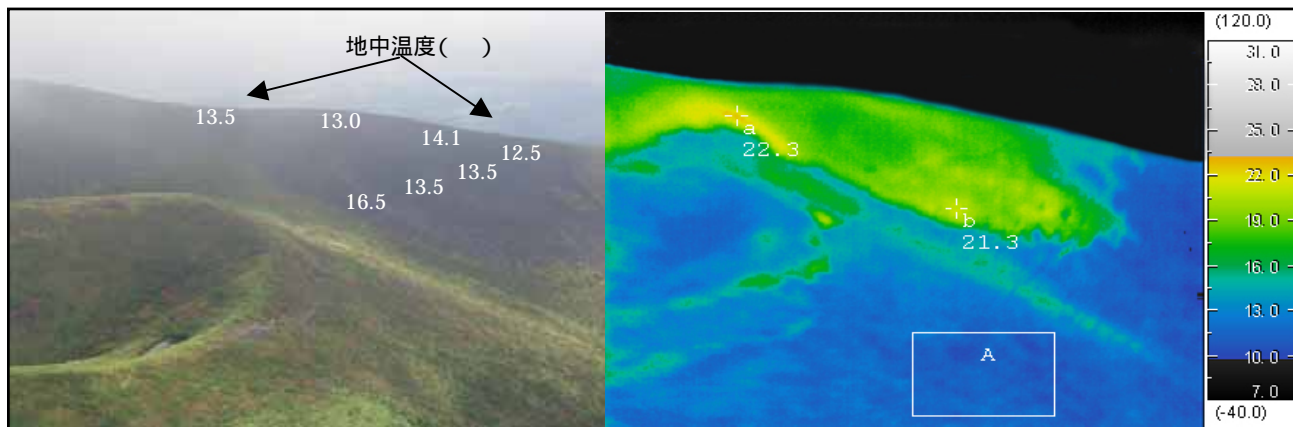
秋田駒ヶ岳の地形図と熱映像撮影ポイント

	現地観測結果の比較(女岳山頂北部)		
	平成16年9月	平成15年6月	平成7年9月
天気・気温	曇・13	晴・18	雨・11
噴気温度	72	86	73
火山ガス	H <sub>2</sub> S -	H <sub>2</sub> S -	H <sub>2</sub> S -
	SO <sub>2</sub> -	SO <sub>2</sub> -	SO <sub>2</sub> -
	(ガス警報機による観測)	CO <sub>2</sub> 4.0%	CO <sub>2</sub> 3.6%

秋田駒ヶ岳現地観測データの比較



女岳山頂北部噴気地熱地帯の可視画像(左)と熱映像解析画像(右) (男岳山頂より撮影 晴・15 放射率:1.00 ノーマルレンズ)



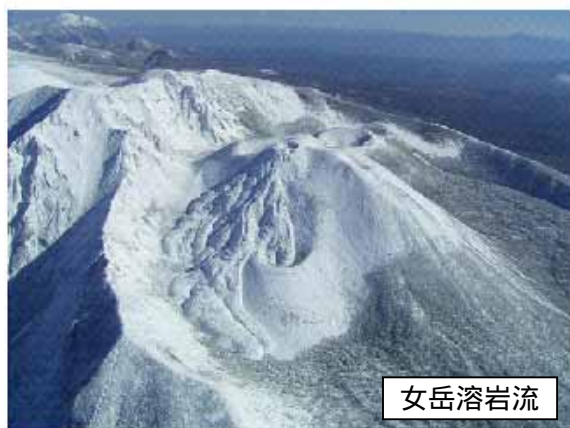
大焼砂と小岳の可視画像(左)と熱映像解析画像(右) (女岳山頂より撮影 曇・13 放射率:1.00 ノーマルレンズ)

**上空からの観測状況** (平成 16 年 12 月 9 日実施)

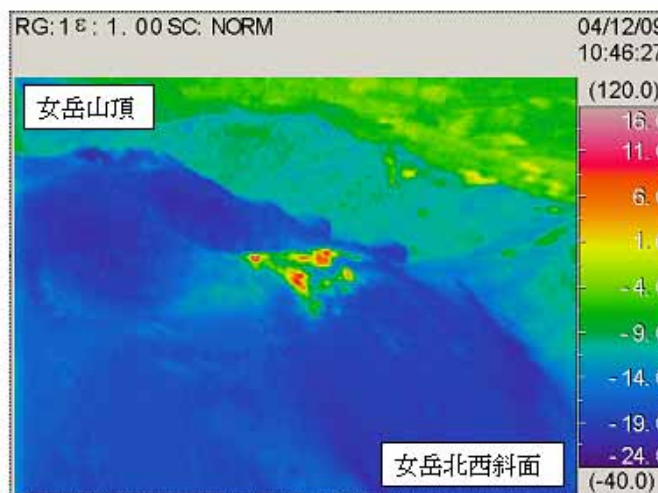
女岳山頂北西側の噴気地熱地帯では引き続き融雪域が確認されましたが、今回の観測で噴気は観測されませんでした。

1970年から71年に噴火した女岳溶岩流の輪郭がくっきりと確認でき、現地観測時(昨年9月15日)に赤外線熱映像撮影で地熱か日射の影響かが判断できなかった場所(溶岩流先端部)は、着雪しており、地熱ではないことが確認できました。

たびたび融雪しているとの情報が寄せられる大焼砂は、今回の観測でも積雪が少ない状態でした。しかし、熱映像画像から熱異常は解析されず、大焼砂の東側斜面の高温部は日射の影響によるものと思われます。



女岳北西斜面の画像(2004.12.9)



大焼砂の画像(2004.12.9)

